

# 現場百景

ここから生まれる新しい景色



旭大橋の歩道から工事中の現場を間近で見ることができる



現場の作業風景。様々な国から集まった方々が働いていた



未完成の庁舎内部。この無機質な空間がどう変わるのか楽しみだ



金比羅山を背にした新庁舎全景  
庁舎側からだけでなく、海側からも凝縮した長崎を一望できる

## 新長崎県庁舎

海都「長崎」の新しい象徴

かつて、「長崎魚市」があった場所（長崎市尾上町）で、現在県下最大級の建設工事が行われているのをご存知だろうか。旭大橋の近くを通ったことがある方は、巨大な建設クレーンが何本も立ち並び姿を見て物々しさを感じたことだろう。魚市が移転し、長い間空き地となっていたその場所は今、海都「長崎」を象徴する建物になるべく日々変容している。

9月上旬、新しい県庁の工事現場を訪れた。昭和28年に作られた現在の長崎県庁は、様々な部署が複数の敷地や建物に分散しているが、新しい庁舎では各部署が一挙に集まるだけでなく、議会棟、警察棟も集約され大規模な庁舎群となる。平成27年1月からはじまった工事は来年秋の竣工を目指して今まさに最盛期。19の会社やJVが集まり、全体として300人を超える人々が働く現場だ。現場に入ると作業する人々の威勢のいい掛け声や、コンコンとハンマーを叩く音、低くなるクレーンの音、様々な音がまじりお祭りのようで楽しい。

完成時地上8階建てになる庁舎は現在5階まで造られており、まだむき出しの鉄筋コンクリートと鉄の足場は、まるで石室の迷路のようだった。しかし、この庁舎も来月には内装が本格的に始まり、サナギが蝶になるように大きく姿を変えることだろう。

庁舎が完成し、オープンした暁には、展望室や食堂が一般に解放され、窓からは長崎港が一望でき、世界遺産となったジャイアント・カンチレバークレーンや、女神大橋も見られるという。今はその情景を思い浮かべながら、日々変わりゆくこの風景を楽しみたい。



小島健一

二〇〇四年から「大人の社会科見学」をはじめ、社会科見学ブームを作る。長崎の地域振興に関わるため二〇一一年より長崎へ。現在長崎大学インフラ長寿命化センター特任研究員。著書に「社会科見学に行こう」「ニッポン地下観光ガイド」などがある。

### 新長崎県庁舎

行政棟、議会棟及び警察棟は免震構造とし、津波等に対応するために、敷地をかき上げ、さらに、主要な機械室を2階以上に配置しています。防災緑地は平常時は公園的な利用ができるようにし、行政棟の一部は一般に開放し交流・協働の機能をもたせたい。

また、駐車場棟を介して、各棟間を往来できる動線を確保します。

県民に優しく、県民が親しみを感じ、港の風景と調和した、「丘のような庁舎」



	構造・階数	面積
行政棟	鉄筋コンクリート造8階建て	46,565㎡
議会棟	5階建て	6,699㎡
駐車場棟	3階建て	11,639㎡
警察棟	8階建て	21,734㎡